

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2374700256
法人名	医療法人 丹羽外科
事業所名	中央グループホーム和
訪問調査日	平成 19 年 7 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 7 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2374700256		
法人名	医療法人 丹羽外科		
事業所名	中央グループホーム和		
所在地 (電話番号)	愛知県岩倉市新柳町1-44 (電話)0587-65-5855		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	平成19年7月30日

【情報提供票より】(平成17年6月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3 階建ての 階 ~ 3 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	49,000円(食材費含)	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 90,000 円)	有りの場合 償却の有無	有( 無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

## (4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.77 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 丹羽外科・内科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、「利用者本位」の姿勢・精神を貫き、高い信念の下に職員指導を実践し、ホームの介護方針に反映させている。また、柔軟な態度・対応で広く周囲の意見も聞き入れ、さらに質の高いサービス提供に努めている。あくまでも「利用者本位」に策定された介護計画は、全職員同対応の基本となり、ホーム独自で立案した「ケアプラン実施表」の活用で、介護計画の目標を達成すべく、計画通りの支援が提供できたかどうかのチェックを行っている。利用者の安心・安全を確立し、地域の中で暮らす利用者の立場に配慮した、地域住民が安心して利用できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は、評価内容を真摯に受け止め、速やかな改善に努めている。前回評価では「ホーム機能の地域への還元」について改善課題とさせていただいた。管理者のその後の積極的な改善努力で、認知症高齢者介護のプロとして、地域の方々の介護相談受託を実現され、適切なアドバイスを実践している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価実施・外部評価受審も今回で3回目となり、管理者の適切な指導で、自己評価をホームの振り返り評価に位置付け、自己評価結果から出る課題にも積極的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域包括センター職員・区長・民生委員・利用者・家族等に参加を願ひし、概ね2ヶ月に1度の会議を開催している。ホームの運営状況・活動報告、外部評価結果報告等の他、ホームの取り組みに対し、地域にどう御協力いただけるかなどの相談を行い、会議を活用し、ホームから積極的な働きかけを継続させている。また、外部からの質問・意見に対しても柔軟に対応し、地域におけるホーム・利用者理解のために取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族に対しては、あらゆる機会を利用して、利用者個人・ホームの十分な情報提供に努めている。また、訪問時・電話連絡時・手紙のやり取りのなかで、努めて意見・要望を聞き取り、聴き取った内容は、運営者・管理者・職員で検討し、ホーム運営・介護方針に速やかに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	管理者は地域活動(介護フォーラム等)を通じ、地域との交流を深めている。また、利用者の意思を尊重しながら、できる限り地域との交流を進め、日常的な関りの中でホーム・利用者の理解・協力をお願いし、利用者の生活の広がり、さらには利用者の安心・安全のための協力依頼もを行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、利用者が地域の一員として暮らし続ける為の支援の基本を『地域のためのGH』理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、理念実践の意義を十分に理解・共有しており、日常の介護の中で、実践に向け楽しく取り組んでいる。		ホームの事務室・共有空間の壁には、理念・目標、月目標が掲げられ、サービスの向上・理念実践に向けての積極的な取り組みをうかがい知る事ができる。今後も同様に、日常の中から自然にサービスの向上につなげられるような、ホーム独自の柔軟な取り組み努力をお願いしたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域活動(介護フォーラム等)を通じ、地域との交流を深めている。利用者が超高齢者の為、地域活動・行事等に直接参加することが困難である場合を除き、利用者の意思を尊重しながら、できる限り地域との交流の機会を活かしている。		開設から2年半を経て、地域交流に対する管理者の努力はようやく実を結びつつある感がある。「何にでも時間が必要です」の管理者の言葉通り、今後の取り組みにも大いに期待するところである。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所は、開設以来毎年外部評価を受けており、評価内容を真摯に受け止め速やかに改善している。また、自己評価をホームの振り返り評価に位置付け、自己評価結果から出る課題にも積極的に取り組んでいる。		運営者・管理者共に、評価結果からの課題解決に対し早急の取り組みを実行し、利用者本位の介護方針・介護環境改善に努めている。その姿勢は今後のホームの体制確立・維持・発展につながるものであると確信するところである。今後のさらなる改善努力に期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員・区長・民生委員・利用者・家族等に参加をお願いし、概ね2ヶ月に1度の会議を開催している。ホームの運営状況・活動報告、外部評価結果報告等の他、ホームの取り組みに対し、地域にどう御協力いただけるかなどの相談を行い、会議を活用し、ホームから積極的な働きかけを継続させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当部署と交流を深めており、管理者の活動をかわれ、市の主催する認知症の講演会に講師として招かれている。また、その講演会を通じ、認知症高齢者理解・グループホーム理解の為の働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時にはホーム側から声かけを行い、積極的に情報提供・報告に努めている。また、請求書と共に手書きの便りを継続し、家族からはホームの温かい対応に喜びの声が多い。その他、随時の変化は電話連絡を活用する等、家族にはあらゆる機会を利用して、十分な情報提供に努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は、訪問時・電話連絡時・手紙のやり取りのなかで、いつでも意見・要望を聞いてもらえ、回答を確認できる環境にある。また、聴き取った内容は、運営者・管理者・職員で検討し、ホーム運営・介護方針に速やかに反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・異動は少なく、馴染みの関係が確立されており、現時点で問題は感じられない。管理者は職員交代による利用者へのダメージを考え、常に利用者本位のサービス提供・全職員同対応が可能な環境確保に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が常に自己啓発をしており職員も積極的に学ぶ姿勢がみられ、いろいろな研修会に参加している。また、管理者は事務室内に「能率的な業務を行うために」を掲げ、具体的な問題提起・指導を行っている。		理念に掲げる「利用者本位のサービス提供確立」に向け、管理者の工夫による指導努力が認められる。今後は指導結果に対し、職員の力量評価を行い、職員の意識向上・技術向上等を検証し、さらにステップアップして行ける、具体的な職員教育の体制作りを提案したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は介護フォーラム等を通じ、同業者と交流を持ち、情報交換をする事で更なる向上に努めている。		管理者の活動に関して、ホームの質の向上への貢献は申し分ないものである。しかし、職員の活動を考えると、同業者・外部者との交流は未だ望めない事が否めないで、今後の活動内容が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどの方が開設当時からサービス利用者で、同様に開設当初からの職員も多く、利用者・職員共に気兼ねなく生活をしている。待機者が10名を超えているとのことであるが、新規利用の場合は見学・体験を行っていただき、利用者・家族共に充分納得していただいてからの利用開始となる仕組みがある。		職員は利用者との長年の関わり、馴れ合いで、利用者の尊厳のおざなり・乱暴な叱責になりがちであるが、現在、日常の中で自然に行なわれている後でのフォローを怠らない方針を貫いていただきたい。利用者の安心・安全な生活維持のために、ますますの取組をお願いするところである。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者・職員は、介護する人・される人の会話でなく、ありふれた日常的なものである。職員が子供(幼児)を職場に同伴し、ホームの一員として過している間、利用者に向けている形となり、かわいがっている笑顔がとても印象的である。育児・躾でも、利用者から学ぶ事は多い。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「変化がない」ととらえず本人の意向を汲み取る努力がされている。日常生活のおもしろおかしい会話の中で、利用者毎の希望・意向を聴き取り、把握・検討し、さらに実現する事で、利用者の喜びにつなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、利用者・家族の希望・要望を聴き取り、管理者・職員意見・情報を参考にして介護計画を作成している。利用者・家族のニーズを捉えて個性を重視した計画が日常生活に活かされており、記録、評価もできている。		利用者本位に作成された介護計画を、全職員同対応を目標として「ケアプラン実施表」を活用し、毎日チェック表形式で記録している。実施したかをチェックする目的の他、ケアプラン通りの支援実施に対する職員の意識向上につなげている。今後も全職員同対応の支援の必要性等を全職員で共有し、さらなる支援努力に期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は利用者に対し、介護目標に沿った支援ができたかを毎日自己評価している。計画が日常生活に活かされているので、状態変化に応じての評価が容易になっている。その後状態に応じた介護計画を立案している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療法人であり、外科・内科共に医療体制は万全であり、利用者・家族の安心となっている。また、ホームの階下に法人経営のデイサービスがあり、相互の利用者が交流を図っている。その他利用者・家族の要望に応じて、又、必要となれば、いつでも柔軟な支援ができる体制になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体である隣接の病院がほとんどの利用者の主治医となっている。又、診療科・歯科等の主治医対応が適わない受診については、本人・家族の希望する医療機関と連携をとり、受診の支援を行っている。また、複雑な服薬管理も適切におこなわれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者アンケートを実施し、終末期に関する本人・家族の意向・希望確認を実施している。方針は個人別記録に分かりやすく記録し、情報を共有している。また、症状・状態・状況の変化をその都度家族に報告し、方針の確認を取っている。		急変の予測が難しい利用者の特性から、状態・状況変化時の家族との会話を記録しておくことも重要であると思われる。さらに、アンケート実施後の方針決定の際、さらには方針変更の際には利用者個人の方針についての同意書をとられることを提案したい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳は守られ一人ひとりが「大切な人」として支援されている。また、記録の取り扱いも適切に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの共同生活としての大まかな決まりはあるものの、利用者の体調・状態・ペースを優先し、利用者本位の支援に努めている。訪問調査当日も、利用者の時間がゆっくり過ぎている感があり、利用者の希望にそった支援が実践されていた。		難聴の人があるためか大声での会話になりがちで、どうしても語尾がきつなくなってしまう事が懸念された。利用者・家族・職員の信頼の深さを考えれば納得もできるが、外部者の来訪時等の配慮の必要性を感じ、検討を提案したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容が偏らないように、また、食事を楽めるように献立が工夫されている。また、食事の後片付けは利用者の意向を確認して「やらされている」と思われない・思わせない言葉かけになっている。利用者と職員は同じテーブルで食事を摂り、配膳から後片付けまで、利用者の楽しみの時間となる配慮をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽めるように支援している	現時点ではホームのタイムテーブルに合わせた支援になっている。特別な希望・要望もないため、個々の希望時間、タイミングに合わせることは積極的に取り組んでいないが、入浴拒否等、入浴が苦痛にならない支援は実践している。		風呂が苦手の人のため、手浴・足浴を行い、入浴を強制しない取り組みは好感が持てる。入浴時間・回数の希望の聞き取りばかりではなく、利用者個人に合わせた柔軟な対応の継続をお願いすると共に、今後時間帯・回数の希望が出た場合の対応・方針の検討をお願いしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護支援員には子供同伴の勤務も受け入れており、子供好き・世話好きの利用者の高揚にもつながっている。また、一人ひとりの顔写真とともに『好きな言葉』『趣味』などを共有空間の見やすい場所に掲示して、利用者の希望・意向の記録も兼ね、利用者が日々を楽しく過ごせるように工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外への外出支援は、天候・気候が許す限り、散歩・買い物等で働きかけている。最近は利用者側からの希望も少なく、お誘いしても利用者に拒否されることが多く、発想の転換で「座りっぱなしにならないように」「居室に閉じこもらないように」の支援に努め、廊下散歩・室内体操などを工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階にあるホーム専用玄関を3階から管理する事は難しく、不審者侵入に備え、常時の施錠を行っている。しかし、通常の出入り口として使用するエレベーター・階段入り口には施錠はしておらず、内外からの利用が可能である。また、常に職員が気をくばりホールが職員不在にならない工夫がされている。		食事準備中はホールの見守りが困難であった開設当初に、運営者は外部評価での改善提案を受け、即座に厨房改装工事を行っている。現在は食事準備中も厨房からホールが見渡せ、利用者に安心感を与えており、改善への積極的な取り組みが評価できる。今後同様の継続支援を心からお願いするところである。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者の避難訓練はリスクを伴うがホーム全体で積極的に取り組み、利用者の螺旋状の戸外非常階段使用・災害訓練認識等に予想外の結果を得ている。また、管理者は人命救助第一の指導を実践し、避難時歩けない人は『布団で覆い抱きかかえ戸外に』等、具体的・現実的に指導している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事支援はもとより不足しがちな水分量を、利用者毎の湯のみを計測して、さりげなく詳細に支援し記録している。訪問調査当日の施設でも、いつでも飲めるようにホールにお茶が準備されていた。		食事時間以外の水分摂取の支援・記録は、詳細であればあるほど苦労も多いと思われるが、残された結果・記録はGH和の誇れるべきことであると確信するので、今後も是非とも継続していただく事をお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭を思わせるゆったり感があり、日当たりはよく、騒音もない。また、季節の花を飾り、ホーム内の飾り付けに工夫を凝らし、戸外に出られなくても季節を感じる事のできる様々な工夫をしている。3階テラスに大型のプランタンを置き、利用者と共に家庭菜園を行い、収穫の喜びを共有している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーが守れる居室で、家族に馴染みの物品の持込をお願いしながら居心地の良い居室作りに努めている。ホーム側からも、一人ひとりの長所を「感謝状」に表し、利用者毎の居室内に掲示する等、居心地良く過ごしていただく工夫をしている。		